



沖縄の人の祖先と言われる「アマミキヨ族」が渡来して住み着いたと伝えられる知念・玉城の霊地を巡拝する神拝の行事を東御廻り(アガリウマーイ)という。首里城を中心として、大里・佐敷・知念・玉城の各間切(マヅリ)を東四間切(アガリウマヅリ)または東方(アガリカタ)というところから、拝所巡礼を「東御廻り」と称した。主な場所は、首里の園比屋武御嶽(スヌヒヤウタキ)、与那原の御殿山(浜の御殿)、親川、佐敷の場天御嶽、佐敷グスク(別名・上グスク)、スクナ森、知念のテダ御川、知念大(御)川、斎場御嶽、知念グスク、知念大(御)川、玉城の藪原の浦原、浜川御嶽、ヤツツカサ、受水走水、御(三)稲田、ミントングスク、仲村渠樋川、玉城ノ口殿内、玉城グスクなど。



【高齢者伝承技術】

自然の中にある材料を使い、生活民具や玩具をつくる人が少なくなった。アダンの葉を使ってゾーリ(はきもの)や、クバの葉を使ってクバシー(水汲み)、クバガサ(作業帽)をつくる。また竹を使ってカゴを作る名人を通して農村文化が子供達に伝えられている。そんな名人の技に出会うと感動するものである。(粟国村)



【竹細工】佐敷町)

竹細工

# 伝統



【汗水節之碑】

沖縄の戦後復興の精神的な支えになったとも言われる「汗水節」の作詞者故仲本稔氏の生誕80年を記念して記念碑が設立された。石碑には台座に「汗水節」の歌詞と仲本氏の功績をたたえた碑文が彫り刻まれている。(具志頭村)

# 歴史



【脱穀機・クルマボウ・クワ】

農漁村文化には、長い年月をかけて育まれた多くの宝があり先人達の集結された知恵と技術が受け継がれている。

【石彫大獅子】

高さ約1.54m、全長約1.40m、幅約50cmと、石彫の獅子像としては県内最大最古を誇る。古くから守り神として、親しまれており、県指定民俗文化財として指定されている。(東風平町字富盛)



【ウージ染め】



むらおこしの成果品  
ウージ染めとはサトウキビの葉と穂を原料とした「織り」染め」のことで、村商工会の村おこし事業で開発された。黄金色を始めとして、伝統と近代色が調和された格調高い色に染め上がる。衣服・ネクタイ・バック等の製品がある。(豊見城村)

# 先達の技を未来へ受け継ぐ。

田舎の農耕・海人(うみんちゅ)・生活文化は先人達から現在まで受け継がれている。その知恵と技術の集結により、多くの宝が生まれてくる。昔からある偉大な歴史と文化を次世代に残せるよう大切に育てていきたい。



【久米島紬】

14世紀頃、南方貿易によりインド系の製織法が伝えられたといわれている。沖縄の地域特性を背景に草木染、泥染、きぬた打等古代の技術を守って生産されている。(久米島)



【琉球かすり】

伝統の技と職人の情熱が産む。琉球かすりの奥ゆかしい美しさも、伝統の技は現在も生きつづけている。かすりの道は、工房を訪ねて、その複雑で繊細な製作工程が見学できるルートである。鮮やかな色彩と織る女の温もりに情緒を感じる。(南風原町)

